

CDMプロジェクトの円滑化に効果的なガイドラインとは？

ISAP 2010 持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム

2010年7月12-13日

小堀 一久

地球環境戦略研究機関

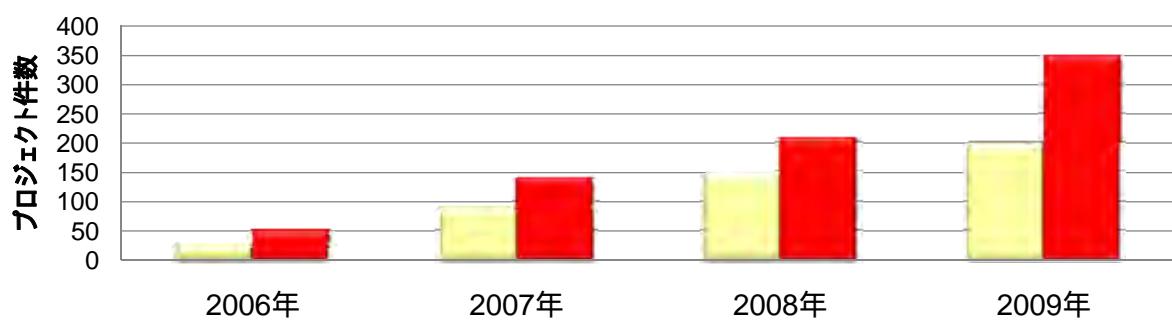
市場メカニズムグループ

CDMの再審査件数が増えている

- ◆ **2,220** 件の登録済CDMプロジェクト
- ◆ **1,053** 件の登録再審査要請
- ◆ **523** 件の登録再審査実施
- ◆ **152** 件の登録却下

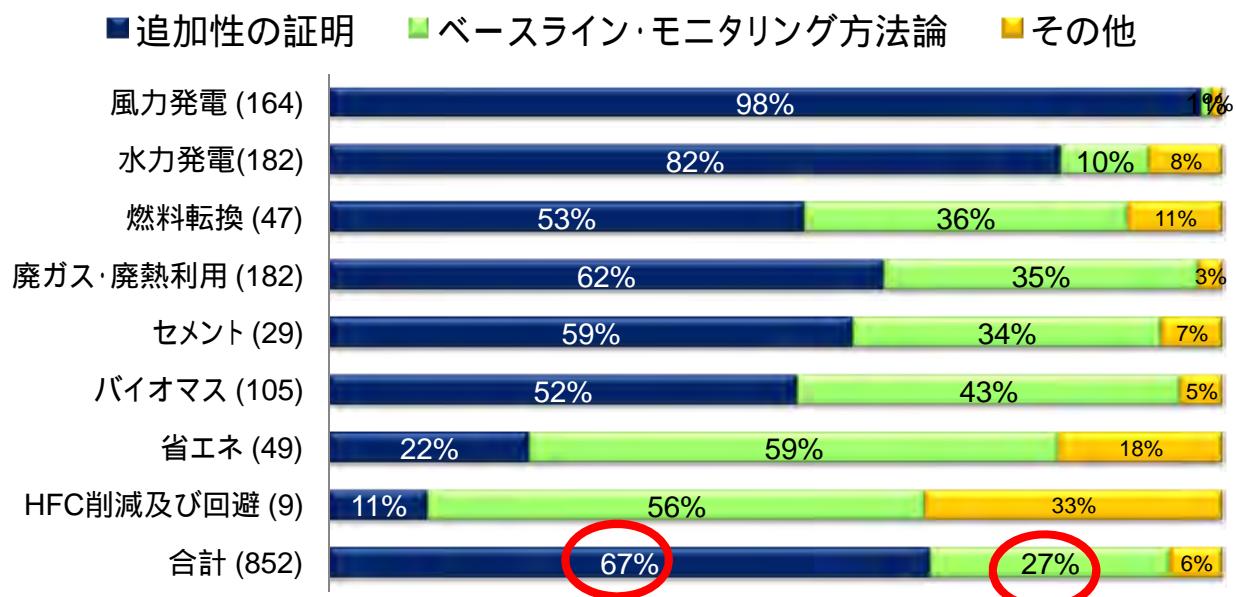
■ 登録再審査実施 ■ 登録再審査要請

(IGES CDM データベース
2010年6月時点)



☞ 2009年に登録申請をしたプロジェクトの約
50% が再審査の要請を受けた。

追加性証明が再審査の主な対象



(IGES CDM再審査・却下データ分析、2010年6月時点)



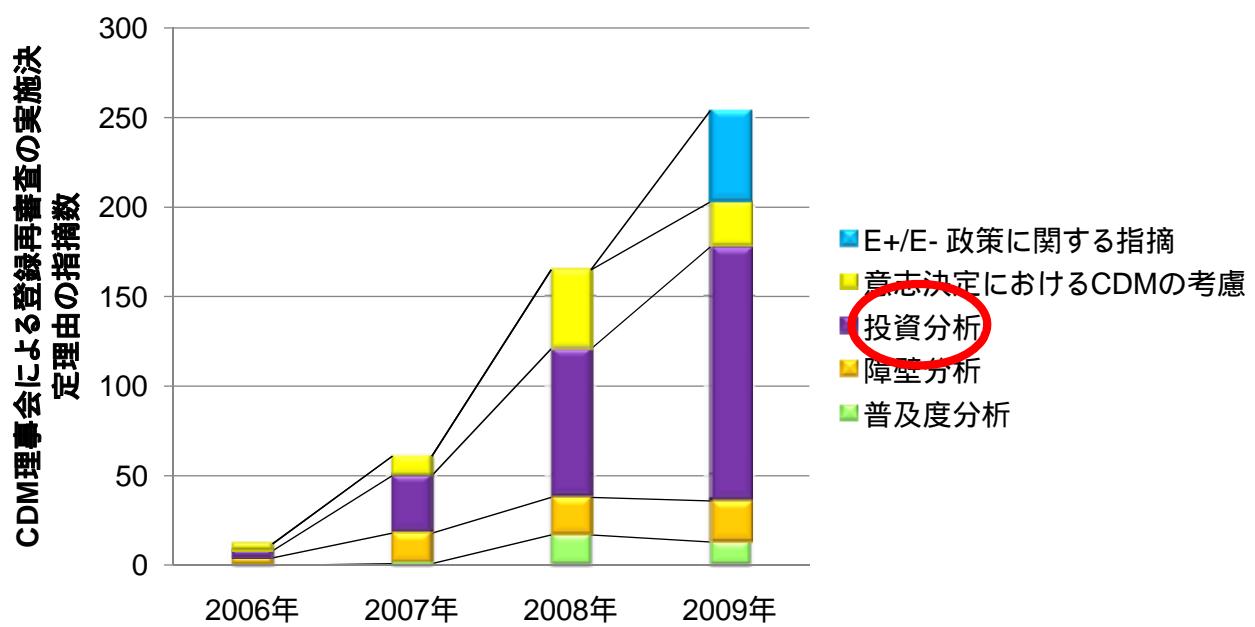
67% が追加性の証明に関する指摘



27% 方法論に関する指摘

3

追加性に関する指摘内容は？



(IGES CDM 再審査・却下データ分析)

☞ 再審査が実施される理由の半数以上 (**55%**) が
投資分析に関する指摘であった。

4

追加性に関するガイドライン事例

CDMの事前考慮の証明と評価に関するガイドライン

- ☞ 2008年8月に導入
- ☞ プロジェクトを実施するに際してCDMの利益が事前に考慮されたかどうかを評価

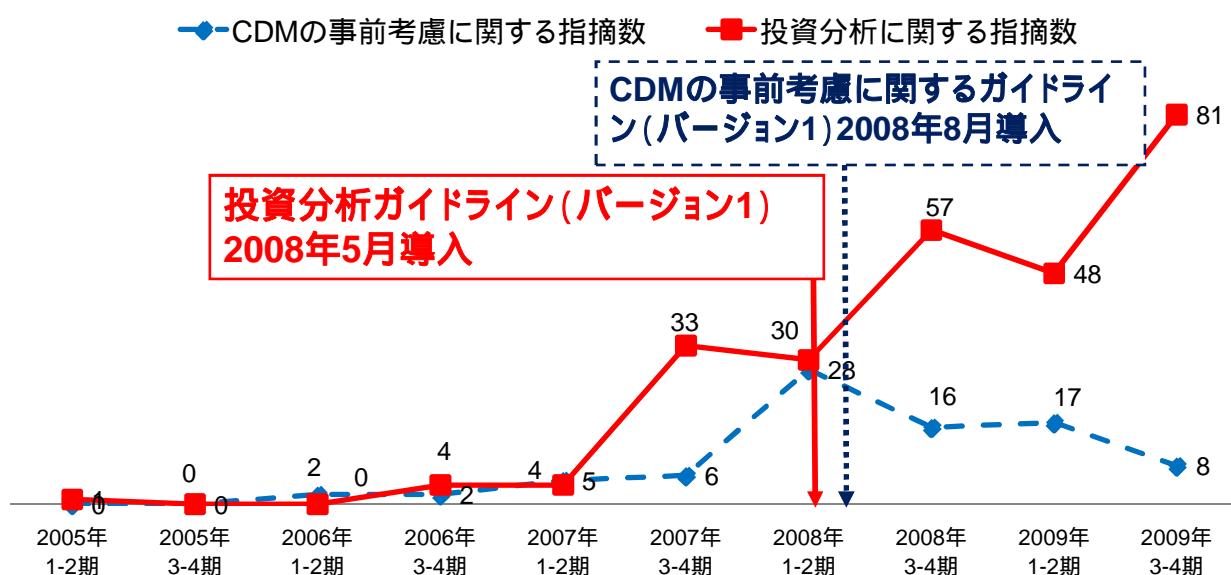
投資分析に関するガイドライン

- ☞ 2008年5月に導入
- ☞ 投資分析に関して、内部収益率の計算方法やベンチマーク値の選定方法等について説明

ガイドラインは有効に機能したか？

5

ガイドライン導入の効果比較



- ☞ ガイドライン導入後、CDMの事前考慮に関する指摘は減少傾向
- ☞ 一方、投資分析に関する指摘は増加傾向

6

なぜ機能したのか？

事前の考慮に関する指摘例

「プロジェクト活動に関して、CDMとして登録する意志があるか、実際に継続的な行動がともなっていたかどうか証明されていない」

ガイドラインの内容

参加者

通知

2008年8月以降
に開始した場合。

DNA

UNFCCC

通知はプロジェクト開始日
から6ヶ月以内に行なわ
なければならない。

☞ ガイドラインは具体的な行動と定量的な指標を提供

7

なぜ機能しなかったのか？

投資分析に関する指摘例

「売電価格の適合性、投資分析に適用されたベンチマークや入力値が適当であるかが証明されてい
ない。」

ガイドラインの内容

- ◆ 定性的で概念的な説明。
- ◆ 分析に関するアプローチのみを提供。

☞ 投資分析ガイダンスは、どのベンチマークを用いて、
どういった入力値を用いるべきか、定量的な指標を提
供していない。

8

デフォルト値設定の影響は？

グリッド排出係数の算出方法に関する再審査要請の申請件数



(IGES CDM 再審査要請のデータ)

- ☞ デフォルト値の設定で、グリッド排出係数の算出方法に関する再審査要請が件数が減少。

9

まとめと今後に向けた課題

効果的なガイドラインであるためには、具体的な行動と定量的な指標を伴うことが重要。

国別排出係数のようなデフォルト値の設定は再審査要請の減少に貢献する。

投資分析ガイダンスは十分に機能しているとは言えず、これまでの経験を踏まえて改善していく必要がある。

10